

令和4年度 補装具に係る調査研究について

	研究テーマ	研究概要
1	<p>【厚生労働科学研究（公募）】</p> <p>補装具費支給制度等におけるフォローアップ体制の有効性検証のための研究 （2年計画の1年目）</p> <p>研究代表者 高岡 徹 横浜市総合リハビリテーションセンターセンター長</p>	<p>○ 補装具のフォローアップに係る身体障害者更生相談所、医療機関、補装具製作事業者、利用者等の役割分担とフォローアップ体制のモデルを構築することを目的として調査を実施。</p> <p>1年目の調査結果： ➢ 更生相談所を中心とした具体的なフォローアップ方策（補装具管理手帳、チラシ、研修、地域リハビリテーション協議会の調査等）を試行し、一部で効果検証を実施。いずれも有用性はあると考えるが、これらをいかに選択し組み合わせるかは課題。</p> <p>2年目の調査： ➢ 1年目の結果をもとに各方策に修正を加え、有効性をさらに高めるとともに、具体的なフォローアップ体制のモデルを提案することを目的に研究を継続。</p>
2	<p>【厚生労働科学研究（指定）】</p> <p>技術革新を視野に入れた補装具の構造・機能要件策定のための研究 （2年計画の2年目）</p> <p>研究代表者 中村 隆 国立障害者リハビリテーションセンター研究所 義肢装具士長</p>	<p>○ 3D技術の基本工作法への適用</p> <p>○ 義肢装具・座位保持装置の機能区分の整理</p> <p>○ 支給基準に関する基礎調査</p> <p>○ 意思伝達装置及び感覚系補装具に関する調査</p>
3	<p>【障害者総合福祉推進事業】</p> <p>既製品・半製品に対する適切な補装具費支給のための研究</p> <p>N T T データ経営研究所</p>	<p>○ Step1 既製品の補装具について、義肢装具事業者、車椅子シーティング協会加盟事業者及び全国の更生相談所に対し、支給実績、加工実態、適合所要時間等のアンケート調査を実施。</p> <p>○ Step2 支給実績の多い既製品の補装具を抽出し、実際の適合に要する時間を実測する。</p> <p>➤➤ 来年度の厚労科研でWGを立ち上げ、既製品についての基準額策定の作業を進める</p>

【厚生労働科学研究】

技術革新を視野に入れた補装具の構造・機能要件策定のための研究 (2年計画の2年目)

- 3D技術の基本工作法への適用
 - 3次元デジタル造形技術は3Dスキャナによる形状取得と3D-CAMや3Dプリンタによる製造手法に分かれ、実態調査から一部の義肢装具で実運用されていることを把握した。支給基準との関係について追加調査を実施中。
 - 短下肢装具、体幹装具において現工程より製造時間の短縮となることを確認した。

- 義肢装具・座位保持装置の機能区分の整理
 - 座位保持装置については世界的に見ても機能区分の分類は見つからず。

- 支給基準に関する基礎調査
 - 全国の補装具製作事業者(380社)に調査票を送付し、260社より回答(回収率68%)得た。データ整理中。
 - 昨今の為替変動や物価高騰を背景に、2年前の調査時と比較した、仕入れ価格の価格変化率を調査中。

【厚生労働科学研究】

技術革新を視野に入れた補装具の構造・機能要件策定のための研究 (2年計画の2年目)

○ 意思伝達装置及び感覚系補装具に関する調査

◆ 視覚障害

- 視覚障害者安全つえの石突交換について：物価高騰に伴い再調査中
- コンタクトレンズの基準検討のための現況・課題の把握：対象を計27種類のコンタクトレンズに絞り込み、価格調査を実施中。。
- 画像処理方式の眼鏡型新規デバイス：補装具基準を満たしていないとして研究終了。

◆ 聴覚障害

- デジタル補聴援助システムの修理対応：デジタル方式が主流である調査結果に基づき令和4年度の告示改正で組み入れられた。
- 各種人工聴覚機器の修理対応：調査結果より販売・修理実態を把握。問題点の整理を進める。

◆ 意思伝達装置

- PCアプリとして機能する意思伝達ソフトウェアを組み込んだ装置の実態調査：専用機器の明確化と、あらたな形式（名称）における対応範囲の検討が必要。
- 言語獲得時期にある児童への意思伝達装置の支給に関する実態調査：学齢未満児に対する支給実績は極めて少ないが、操作性のみならず言語理解の評価や指導を行う適切な専門職の介入で利用できる場合も多数ある。

【障害者総合福祉推進事業】

既製品・半製品に対する適切な補装具費支給のための研究

【目的】

補装具は原則としてオーダーメイドであるが、近年は既製品装具の品質が向上し、支給されることも多い。そのため、告示として既製品装具の基準価格を定める必要があるため、その基礎データを収集する。

【実施状況】

- ① 全国の更生相談所及び義肢装具、車椅子シーティング関連事業者にアンケート調査を行い、補装具として支給（納品）した既製品装具の種類と、適合に要した時間等を明らかにした。
- ② 脳卒中用伸展型アームスリング（オモニューフレクサ）、ヒッププロテクターⅡ、オルトトップAFO LH、RVポケットⅡr、バンビーナチェアの5点について、実際に要した適合作業時間の計測を実施。
- ③ 現在、実施中。

調査結果を受けて、
令和5年度 既製品の基準価格策定のためのWGを立ち上げ、
令和6年度の告示改正に向けた作業を実施する。

令和6年4月告示改正に向けた作業計画

4月

6月

8月

10月

推進事業のデータ検討

第1回 既製品基準額算定WG(仮)

告示案作成

第2回 既製品基準額算定WG(仮)

告示案作成・内容確認

第3回 既製品基準額算定WG(仮)

団体ヒアリング回収・まとめ

第60回補装具評価検討会での議論

修正

令和5年度 補装具に係る調査研究について

	研究テーマ	研究概要
1	<p>【厚生労働科学研究(公募)】</p> <p>補装具費支給制度等におけるフォローアップ体制の有効性検証のための研究 (2年計画の2年目)</p> <p>研究代表者 高岡 徹 横浜市総合リハビリテーションセンター センター長</p>	<p>○ 補装具のフォローアップに係る身体障害者更生相談所、医療機関、補装具製作事業者、利用者等の役割分担とフォローアップ体制のモデルを構築することを目的として調査を実施。</p> <p>1年目の調査結果:</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 更生相談所を中心とした具体的なフォローアップ方策(補装具管理手帳、チラシ、研修、地域リハビリテーション協議会の調査等)を試行し、一部で効果検証を実施。いずれも有用性はあると考えるが、これらをいかに選択し組み合わせるかは課題。 <p>2年目の調査:</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 1年目の結果をもとに各方策に修正を加え、有効性をさらに高めるとともに、具体的なフォローアップ体制のモデルを提案することを目的に研究を継続。
2	<p>【厚生労働科学研究(指定)】</p> <p>技術革新を視野に入れた補装具費支給制度のあり方のための研究 (3年計画の1年目)</p> <p>研究代表者 浅見 豊子 国立大学法人佐賀大学医学部附属病院 診療教授</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 支給判定 ○ 運動器系補装具 ○ 視覚器系補装具 ○ 聴覚器系補装具 ○ 重度障害者用意思伝達装置 <p>補装具費支給事務におけるオンライン活用方法の検討</p> <p>支給基準の価格検討 (基準価格案の作成)</p>

R5年度

R6年度

R7年度

支給判定

判定困難事例等を抱える更生相談所及び市町村に対する、オンラインでの相談の実施
補装具費支給事務におけるオンライン活用方法の検討

運動器系補装具

⊖既製品等の新たな支給基準案の作成

①支給基準の価格検討

ⓐ①基本工作法・購入基準・修理基準
の見直し及び試案の作成

①製作材料の価格調査

試案に価格調査の結果を反映した
告示価格の変動率の算出

視覚系補装具

補装具支給アセスメントシートの試作
及び訓練実施方法の検討

①支給実態、価格調査及び
基準価格案の作成

試作アセスメントシートを用いた補装具
使用訓練の試行と評価

試作アセスメントシートを用いた
補装具使用訓練の効果検証

支給基準案の作成

聴覚系補装具

①支給実態、価格調査及び
基準価格案の作成

「集団補聴システム」支給実態調査
及び効果検証

メーカー長期保証が補装具費に与える
効果の推定

ⓐ購入基準・修理基準の項目見直し

支給基準案の作成

重度障害者用意思伝達装置

①ⓐ支給基準の項目見直し及び各構成
要素別価格設定のための調査

適切な適合技術料算定のための
調査実施及び案の作成

価格調査及び支給基準案の作成

* []内はR6年度告示改正に向けた研究、その他はR9年度に向けた研究